

令和6年度一般選抜（A日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしています。小論文試験は、このうち主に「思考力、判断力、表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としています。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験にて提示される問題文は、「日本経済新聞」のコラムである「経済教室」で取り上げられた成長力を取り戻すことについての連載のうち、サービス業について需給両面で支援が必要なことを論じたものである。

（意図）

問1については、本文中にあるサービス産業を特徴づける記述（設備を作る産業ではないこと、専門・科学技術、業務支援サービス業では科学技術研究が生み出すサービスそのものを付加価値とする産業であること、保健衛生・社会事業では、人と人との間のサービスのやり取りを中核とする産業であること、といった点）について触れたうえで、付加価値がサービスの行なわれる「その場」で生み出されるため地理的な制約が重要な意味を持つこと等を指摘し、指定された字数内で要約することを求めている。

問2については、問いで示された内容を正しく理解し、計算することができる学力を問うものである。

2008年における製造業の総雇用者数一人当たりのGDPであれば、 $111 * 100000000$ （万円単位GDP）を $1150 * 10000$ （総雇用者数）で割って 965
2008年における成長3産業の総雇用者数一人当たりのGDPであれば、 $98 * 100000000$ （万円単位GDP）を $1000 * 10000$ （総雇用者数）で割って 980
2021年における製造業の総雇用者数一人当たりのGDPであれば、 $118 * 100000000$ （万円単位GDP）を $1050 * 10000$ （総雇用者数）で割って 1124
2021年における成長3産業の総雇用者数一人当たりのGDPであれば、 $119 * 100000000$ （万円単位GDP）を $1400 * 10000$ （総雇用者数）で割って 850

問3の1)については、雇用が大きく増加しているのに全国的に不足が言われ続けている要因として、サービス産業の特徴としての地理的（空間的）な制約がある点をふまえて分かり易く記述することを求めている。

問3の2)については、筆者は本文の最後で労働供給不足を緩和する策として規制緩和の重要性を述べているが、規制の緩和以外に考えられるものを、所定の語句を使って示すことを求めている。

（参考）

問1 解答例

サービス産業は、サービスの供給に必要な設備を作る産業ではない。 専門サービス業は科学技術研究が生み出すサービスそのものを付加価値とする産業であり、保健衛生・社会事業は人と人との間のサービスのやり取りが中核となる産業である。その特性は、付加価値がサービスの行なわれる「その場」で生み出されることにある。つまり地理的な制約が重要な意味を持つ。このため多くのサービスは国内の需要に支えられている。(194字)

なお、下線部分が抜けていても正解とする。

問3の1) 解答例

サービス産業は、付加価値がサービスの行なわれる「その場」で生み出されるため、供給には地理的な制約がある。従ってそれぞれの職種における地域の事情によって、部分的な不足が生じやすいことが理由として考えられる。(102字)

問3の2) 解答例

現行の規制の下であっても、賃金の一層の引き上げや労働環境のさらなる改善を促すことで、労働供給の制約をある程度緩和することは可能である。(67字)